



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語（3）：「過山榜圖」発音と注釈(fulltext)
Author(s)	吉野,晃
Citation	東京学芸大学紀要. 人文社会科学系. II, 69: 73-84
Issue Date	2018-01-31
URL	http://hdl.handle.net/2309/148754
Publisher	東京学芸大学学術情報委員会
Rights	

タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語 (3)

——「過山榜圖」発音と注釈——

吉 野 晃*

地域研究分野

(2017年8月30日受理)

要 旨

タイ北部のミエン（ヤオ）の元に伝承されている歌とミエン語歌謡語の調査の報告の一部である。本講では「過山榜圖」という叙事歌のテキストを紹介し、その歌謡語による発音を付し、解釈を施して日本語訳を作成した。

キーワード：ミエン，歌，歌謡語，歌詞

1. 緒語

ミエン（ユーミエン）は、中国南部から大陸東南アジア北部（ベトナム、ラオス、タイ）の山地に居住する民族であり、焼畑耕作に携わって移動を続け、現在のような広い分布を示すに到った。この途上で、ミエンは漢族など外部から多くの文化要素を受容し、自らの文化に取り込んできた。儀礼と歌もその一部である。儀礼文書と歌謡は、ミエンの伝承の大きな部分を構成しているが、いずれも漢族文化の影響を強く受けている。

本稿では、昨年の報告に引き続き、タイ北部に居住するミエンの歌を紹介し、その発音と注釈を報告する。ミエンの歌については、パーネル（Herbert C. Purnell）がタイ・ラオスにおける歌の資料に基づき、基本的な分析を行っている〔珀内尔 1988, Purnell 1991, Purnell 1998, Purnell 2002〕が、個々の歌が示されたのはごく少ない。儀礼歌に関する調査・分析は中国において数多あるのだが、儀礼中の歌ではなく、俗歌謡に関する研究は皆無に等しいのが研究の現状である。

ミエンは歌詞を書き付けるときと儀礼文書は漢字で書くが、ミエンの歌は日常の口語とは異なる歌謡語 *dzun pei waa* という語彙体系が用いられている。歌謡語では特殊な用語が用いられており、さらにそれが文脈によって比喻として使われ、その解釈は甚だ難しい。それも歌の実例に当たって分析することを通して徐々に明らかにするほかはない。その歌謡語は、漢語の語彙がかなり多く入っているが、やはりミエン語である。よって、漢字の発音も、日本における漢字音が日本語化した発音となるのと同様に、ミエン語化した発音である。それもミエン語に取り入れられた時期により、同じ文字でも読みが異なることがある。日本語における漢字の音読みに漢音と呉音の違いがあるのと同様である。更に、漢語由来でないミエン語独自の語彙もあり、それに宛字した文言も見られる。このように、漢字の字面だけみても、意味がとれないことが多く、歌に長けたミエン人の指導と協力がなければ分析は進まなかった。

筆者は先に「タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語 (1)：『歌二娘古』発音と注釈」という報告を出した

* 東京学芸大学 人文科学講座 地域研究分野 (184-8501 小金井市貫井北町4-1-1)

(吉野 2016b)。本稿はその続編である。先稿と同様に、ミエン村落で採集した歌詞に発音を付し、和訳を付け、資料として報告したものである。

2. 歌詞のテキストの背景

本稿で扱う歌詞のテキストは、タイ王国パヤオ県チエンカム郡ロムイエン区第10村パーデー・ラーン集落 (Phadaeg Laang) 在住の趙金寿氏が所持する本である。趙金寿氏は1945年生まれ、の祭司 (大師公) であり、漢字を読み書きできる。「過山榜圖」のテキストは、趙金寿氏が若いときに手帳に写本したものであり、同氏の創作ではない。この歌の後に一連の歌があり、その末尾に「民国七十七年戊辰歲七月初三日元筆」とあるので、1988年に書かれたものであることが分かる。テキストは2013年に撮影し、それを文字起こした後、2017年に到るまで数度趙氏にインタビューしてテキストの発音と解釈を確定した。

語彙と発音については、IMEDとMMEDで確認したが、両辞書に収録されていない語彙も若干あった。下記の発音記述は、音声ではなく音素の表記である。漢字については、フォントがあるものはそれを利用した。ただし、ミエンには日本の国字のように、ミエンが作った「漢字」がある。例えば「父」の下に「上」と書く字がある。こうした既成のフォントに見いだせない「ミエン字」は、[父^上+上] というように記した。

ミエン語の表記は基本的にIPAに従う。ミエン語のアルファベット表記は、Purnell (ed.) 2012 *Iu-Mien-English Dictionary* の表記が標準となっているが、ミエン語を専らとする読者以外には甚だ読みにくいものである。そのためIPA表記に準じた表記とした。/s/ と /dz/ はそれぞれ ts と dz で示した。母音の長短の弁別は /a/ と /a:/ 以外にはない。歌詞の声調は音節末に記した。声調記号は以下の通りである。高、中、低は音の高さを示し、平、昇、降は音の高さの変化を示す。無記号 = 高中平。^ = 中降。' = 非促音節 (母音あるいは鼻音で終わる音節) の時は高昇降、促音節 (-p, -t, -k, -ʔ で終わる音節) の時は高平。~ = 低昇降。˘ = 低昇。` = 低平。また、ハイフン (-) で示された熟語の場合、その第一音節は、元の声調にかかわらず、非促音節の場合は中降、促音節の場合は低平で発音される。歌詞以外のミエン語表記では声調を省略した。誤字と判断されるものには、下に [] で正しいと思われる字を示した。

3. テキスト本文

又到 過山榜圖 留子孫看様

1 世 間 灼 庭 奏 返 乱
[州 廷] [反 乱]

seĩ ken tsjəu - tɨŋ^ˆ dzəu[˘] fa:n lun[˘]

国の中が混乱状態となった。

注 tsjəu-tɨŋ^ˆ: 国家。wei[˘] sei[˘]: 家族を営む。

萬 民 為 世 也 慌 愁

ma:n[˘] ma:n^ˆ wei[˘] sei[˘] ja:[˘] hwa:ŋ dzau^ˆ

万民は家族があっても不安になり憂えた。

2 思 作 千 條 天 底 事

feĩ tsu[˘] tʂin - tiu^ˆ tʂin-diə[˘] dzai[˘]

天下の様々なことを考える。

注 na:n^ˆ təu^ˆ: 思うようには暮らせない。暮らしにくい。

不 憂 不 噫 便 難 逃
[逃]

ja:m[˘] jəu ja:m[˘] jiə^ˆ pin[˘] na:n^ˆ təu^ˆ

予め心配しておかなくては、思うようには暮らせない。

3 不 思 不 想 不 煩 計

ja:m[˘] feĩ ja:m[˘] faŋ[˘] ja:m[˘] fa:n^ˆ ceĩ[˘]

考えなければ悩みもない。

國 上 衆 人 自 走 慌

kuəʔ[˘]-tsa:ŋ[˘] tswaŋ[˘] ŋiən^ˆ tsei[˘] pjaũ[˘] hwa:ŋ

国中の人々が不安に駆られて逃げ出した。

- 4 不拋家庭也是散 不離哥友自離開
 [離]
 ja:m` beu ca: - tiŋ` ja:` tsei` dza:n` ja:m` lei` ko` jəu` tsei` lei` goi
 家族を捨てないと言っていた人も家族と別れた。 兄弟友人と離れないと言っていた人も分かれた。
- 5 不曉不知愛作向 不開不亂自橋 [足+受]
 ja:m` çiu` ja:m` pei oi` tsu?` çə:ŋ` ja:m` goi ja:m` lun` tsei` cəu` jei
 知らない分からないと言っていた人も逃げだそうとする。離れない散り散りにならないと言っていた人も自ら分かれる。
 注 çiu` : 知る, 分かる。 cəu` jei : 分かれる。
- 6 不爺不姐不煩在 不男不女不煩生
 ja:m` jiə` ja:m` tsiə` ja:m` fa:n` tsoi` ja:m` na:m` ja:m` nəu` ja:m` fa:n` seŋ
 父と言わず, 母と言わず, 居なくなった。 息子と言わず, 娘と言わず, 生まなくなった。
 注 fa:n` tsoi` : 居る。 fa:n` seŋ : 産む。
- 7 不妻不对不煩鎖 不愿不修不得連
 ja:m` ts`ai` ja:m` toi` ja:m` fa:n` t`əu` ja:m` pun` ja:m` fjeu` ja:m` tu?` lin`
 妻と言わず, 夫と言わず, お互いを無視するようになった。配偶者を得たいと思わなければ, 連れ添えない。
 注 fa:n` t`əu` : 良く知る。
- 8 不哄那人守錯世 不落那人根本錢
 ja:m` hwaŋ` ja:i` niən` sjeu` ts`a?` sei` ja:m` lo?` ja:i` niən` kən - puən` tsin`
 誰であっても, 独身を守るよう勧めて婚資を払わなくするように騙してはならない。
 注 那 : 「どれ」を意味する。 ja:i` への宛字。以下同様。 kən-puən` tsin` : 婚資。
- 9 橋花架到道原洞 千花萬对上乔来
 [桃源] [橋]
 cəu` k`wa: ca: t`əu` to` - juəŋ` toŋ` ts`in - k`wa: ma:n` toi` tsa:ŋ` cəu` ta:i`
 花橋が架かって桃源洞に到り, 多くの子どもの橋を渡って来る。
 注 ミエンの世界観では, 生まれる前の子どもの霊は「花」といわれ, 桃源洞というところにいる。それが橋を渡ってこの世にいたり, 子どもとして生まれる。
- 10 千花萬朶上乔过 千世阴元有人真
 [橋] [个]
 ts`in - k`wa: ma:n` təu` tsa:ŋ` cəu` ciə` ts`in - sei` jiəm - jun` ma:i` ko` tsien`
 多くの胎児が橋に上がってゆく。 千世の因縁で良い配偶者を得た。
- 11 千世阴元有日到 慢来执起伴苗丹
 [因縁]
 ts`in - sei` jiəm-jun` ma:i` niət` t`əu` man` ta:i` tsiəp` k`i?` biən` miu` ta:n`
 千世の因縁が日を得て到る。 配偶者を得て, 私に寄り添っている。
 注 jiəm-jun` : 因縁。「阴元」は宛字。以下同様。 miu` ta:n` (苗丹) : 男性の一人称単数。
- 12 萬人萬(听)萬條古 慢思慢想慢愁慌
 ma:n` niən` ma:n` t`iŋ` ma:n` tiu` kəu` man` fei` man` faŋ` man` dzau` hwa:ŋ`
 人々は昔のことを聞くものだ。 そうすればよく考え将来を心配する。
 注 听 : 原文に無かったが, インフォーマントが覚えていた歌詞によって脱字と判断し, 補った。

- 13 灼庭不返不是乱 國上不慌不是愁
 [州 廷] [反]
 tsjəu - tiŋ˥ ja:m˥ fa:n˥ ja:m˥ tsei˥ lun˥ kuəʔ˥ - tsa:ŋ˥ ja:m˥ hwa:ŋ ja:m˥ tsei˥ dzau˥
 国の中で謀反が起こらなければ混乱もない。 国中が不安でなければ憂うことはない。
- 14 銀錢不使也是散 妻对不呼也是思
 ɲa:n˥ tsin˥ ja:m˥ sai˥ ja˥ tsei˥ dza:n˥ tsʰai - tɔi˥ ja:m˥ dzɛŋ ja˥ tsei˥ fei
 (戦乱のため) 銭は使おうとしなくてもなくなってゆくが、夫婦は争わなければ相思うものだ。
 注 tsʰai-tɔi˥ : 夫婦
- 15 牛馬不拖也是瘦 春耕不種不成春
 ŋoŋ˥ ma˥ ja:m˥ tʰo ja˥ tsei˥ cai˥ tsʰun keŋ ja:m˥ tswaŋ˥ ja:m˥ tsjaŋ˥ tsʰun
 (戦乱のため) 牛馬は使役しなくても痩せるが、 春に播種しなければ実りはない。
- 16 六更不起也是定 九月不霜也是 [↑+筭]
 [停]
 luəʔ˥ keŋ ja:m˥ kʰiʔ˥ ja˥ tsei˥ tiŋ˥ cuə˥ ɲut˥ ja:m˥ soŋ ja˥ tsei˥ kwa:n
 朝五時頃に起床しないのは怠け者である。 九月に雨が降らなければ実らない。
 注 tiŋ˥ : 止まる, 停滞する。ここでは「怠け者」の意味。 kwa:n : 分散する。ここでは「作物のできが悪い」意味。
- 17 六月不雨也是敗 七月不秋不変禾
 luəʔ˥ ɲut˥ ja:m˥ i˥ ja˥ tsei˥ pa:i˥ tsʰiət˥ ɲut˥ ja:m˥ tsʰjəu ja:m˥ pen˥ wuə˥
 六月に雨が降らなければやはり実りが悪い。 七月に頒秋儀礼を行わなければ稲は実らない。
 注 ja:m˥ tsʰjəu : 頒秋儀礼を行わない。陰暦七月に畑の精霊に紙銭を供える頒秋pun tsʰjəuという儀礼を行う。
- 18 春季不風也是發 年当不架不成妻
 tsʰun kwei˥ ja:m˥ pwaŋ ja˥ tsei˥ fa:t˥ nin˥ tɔŋ ja:m˥ ca˥ ja:m˥ tsjaŋ˥ tsʰai
 春に風が吹かないのも宜しくない。いい歳になっても嫁を探して手続きしなければ娶ることができない。
 注 ca˥ : 嫁を探し, 婚姻の手続きを取る。
- 19 生鉄入炉不怕火 有鉄無槌不変刀
 seŋ - liəʔ˥ piəʔ˥ ləu˥ ja:m˥ dziə˥ cʰiə˥ ma:i˥ liəʔ˥ məu˥ tswei˥ ja:m˥ pen˥ to
 鉄は炉に入っても火を恐れることはない。鉄があっても槌で鍛鉄しなければ刀にならないからだ。
- 20 六月夏季道愁尽 龍王運水上天堂
 [受]
 luəʔ˥ ɲut˥ ha˥ kwei˥ sjəu˥ dzau˥ tsien˥ lwaŋ˥ - huŋ˥ wuən˥ swi˥ tsa:ŋ˥ tʰin - tɔŋ˥
 六月夏季になれば作物の心配をする。 龍王は水を天堂に運ぶ。
- 21 龍王身在深海底 浪色影珠真是金
 lwaŋ˥ - huŋ˥ siən˥ tsoi˥ siəm˥ kʰi˥ diə˥ la:ŋ˥ - set˥ eŋ˥ - tsəu˥ tsien˥ tsei˥ ciəm˥
 龍王はその身が深海の海底にある。 虹は本当は金色である。
 注 la:ŋ˥ - set˥ eŋ˥ - tsəu˥ : 虹。虹は龍王が姿を現したものとされる。
- 22 細想当初千迹定 立书帖表去遑郷
 [辺] [遊]
 fai˥ faŋ˥ tɔŋ - tsʰo tsʰin piən˥ tiŋ˥ liəp˥ səu˥ tip˥ piu˥ cʰəu˥ jəu˥ ɕa:ŋ
 過去の様々な故事をよく考える。 旅行に必要な手形を書いて他郷に行く。

- 41 爺 姐 当 初 養 長 大 難 休 難 捨 也 難 開
 jiə˥ - tsiə˥ tɔŋ˥ tsʰɔ˥ juŋ˥ tsjaŋ˥ ta:i˥ na:n˥ çəu na:n˥ siə˥ ja˥ na:n˥ gɔi
 父母は初めから子どもを大きくしようと育てる。養うのをやめたり, 養子に出したり, 分かれたりしようとは思わない。
 注 siə˥: ここでは「養子に出す」意味。
- 42 難 断 情 恩 也 断 过 难 留 情 儀 伴 高 丹
 na:n˥ tun˥ tsinj˥ en ja˥ tun˥ ciə˥ na:n˥ ljəu˥ tsinj˥ pei˥ biən˥ ku˥ ta:n
 (しかし) 子どもへの愛情を絶ちがたくても分かれる。子どもを愛していても私と一緒にいることが難しい。
- 43 那 日 那 時 正 得 变 那 歳 那 年 政 好 修
 la:i˥ niət˥ la:i˥ tsei˥ tsinj˥ tu?˥ pen˥ la:i˥ fwi˥ la:i˥ nin˥ tsinj˥ kʰu˥ fəu
 いつの日か(まともに家族)を営むことができるようになる。いつの年か, 共に暮らし共に仕事をする。
- 44 盤 古 元 年 置 天 底 管* 朝 已 歳 未 傳 行
 piən˥ kəu˥ jun˥ nin˥ tsei˥ tʰin - diə˥ kun˥ tsiu˥ tsiə˥ fwi˥ mei˥ tsun˥ heŋ˥
 盤古(王の治世)の元年に天下を創った。何年治世したかは伝わっていない。
 注 *: 原テキストの「管」の字は, 竹冠の部分がへとなっている。頻出するため, 「管」の字で示す。以下同様。
- 45 那 代 正 来 出 皇 管 万 民 爲 世 定 寛 油
 la:i˥ toi˥ tsinj˥ ta:i˥ tsʰuət˥ huŋ˥ kun˥ ma:n˥ ma:n˥ wei˥ sei˥ tiŋ˥ jian˥ - jəu˥
 [出] 出
 いつの世か盤皇が現れてこの世を治める。そうすれば万民は家族を営み喜ぶことになる。
 注 jian˥-jəu˥: 喜ぶ, 楽しむ。口語。「寛油」は宛字。
- 46 盤 古 管 朝 未 轉 世 孔 明 封 口 未 開 言
 piən˥ kəu˥ kun˥ tsiu˥ mei˥ dzuən˥ sei˥ kʰoŋ˥ - meŋ˥ pwaŋ˥ kʰəu˥ mei˥ kʰəi˥ jin˥
 盤古の治世はまだ再来していない。孔明は口をつぐみ, 言葉を発しない。
- 47 盤 皇 安 在 天 心 殿 開 言 变 法 向 州 庭
 piən˥ huŋ˥ ən˥ tsoi˥ tʰin - fiəm˥ tin˥ kʰəi˥ jin˥ pen˥ fa:t˥ çə:ŋ˥ tsjəu - tiŋ˥
 盤皇は天心殿に安居している。口を開けばそれが法律となり, 国中に及ぶ。
 [州 庭]
- 48 過 後 盤 皇 重 管 國 難 来 傳 报 衆 人 知
 ciə˥ həu˥ piən˥ huŋ˥ tsoŋ˥ kun˥ kuə?˥ na:n˥ ta:i˥ tsun˥ buə˥ tswaŋ˥ jian˥ pei
 現れて後, 盤皇が再び国を治める。いつ現れるかは, 人々に言うのが難しい。
- 49 天 皇 仁 兄 重 九 个 一 萬 五 千 八 百 年
 tʰin - huŋ˥ çin˥ çoŋ˥ tsoŋ˥ cuə˥ kə˥ jiet˥ ma:n˥ m̃˥ tsʰin˥ pe?˥ pe?˥ nin
 天皇帝は兄弟が9人いた。治世は15,800年続いた。
 注 çin˥ çoŋ˥: 兄弟。
- 50 伏 儀 姓 明 風 家 子 一 千 三 百 也 團 圓
 fu?˥ - hei˥ siŋ˥ meŋ˥ pwaŋ˥ ca˥ tsei˥ jiat˥ tsʰin˥ fa:m˥ pe?˥ ja˥ tun˥ jun˥
 [義] 伏羲は姓が明で, 仙人の家の人であった。治世は1300年つづき, 安定していた。
 注: pwaŋ˥ ca˥: 仙人の家

- 51 神農姓養置禾米 管朝五世百午年
 [五]
 tsian˥ noŋ˥ siŋ˥ juŋ˥ tsei wu˥ mai˥
 神農は姓を養といい、稲を創った。
 kun˥ tsiu˥ ɱ˥ sei˥ pɛʔ˥ ɱ˥ nin
 神農の治世は五代、150年続いた。
- 52 小昊管朝八十四 過了又交端顛王
 fiu˥ - ha:n˥ kun˥ tsiu˥ pet˥ tsiəp˥ fei˥
 小昊の治世は84年続いた。
 ciə˥ liu˥ jəu˥ ciu duən˥ çin˥ huŋ˥
 その後端顛王が後を継いだ。
- 53 端顛管朝七十八 帝嚳管朝世五年
 duən˥ çin˥ kun˥ tsiu˥ tsʰiat˥ tsiəp˥ pet˥
 端顛王の治世は78年続いた。
 ti˥ kau kun˥ tsiu˥ sei˥ ɱ˥ nin
 嚳帝の治世は5年であった。
- 54 帝堯管朝一百歲 帝舜一百管炆庭
 [州廷]
 ti˥ çə.u kun˥ tsiu˥ jiat˥ pɛʔ˥ fwi˥
 堯帝の治世は100年続いた。
 ti˥ tsʰiu˥ jiat˥ pɛʔ˥ kun˥ tsjəu - tiŋ˥
 舜帝は100年間国を治めた。
- 55 夏属仁兄十七帽 四百四十一管世間
 çə˥ su˥ çin˥ çoŋ tsiəp˥ tsʰiat˥ muə˥
 夏属は兄弟が17人おり、
 fei˥ pɛʔ˥ fei˥ - tsiəp˥ jiat˥ kun˥ sei˥ ken
 441年間世を治めた。
 注 muə˥: ミエン口語で兄弟を数えるときの助数詞。「帽」は宛字。「夏属」の傍点は、この語が漢語であることを示す。もとのテキストには当該の字の傍に×が書かれていた。以下同様。
- 56 南陽管朝六百歲 洪武管朝八百七十五年
 na:m˥ ja:ŋ˥ kun˥ tsiu˥ luəʔ˥ pɛʔ˥ fwi˥
 南陽の治世は600年続いた。
 hoŋ˥ wu˥ kun˥ tsiu˥ pet˥ pɛʔ˥ tsʰiat˥ tsiəp˥ ɱ˥ nin
 洪武の治世は875年であった。
- 57 洪武開枝奏返乱 君是吃君民吃民
 [反]
 hoŋ˥ wu˥ kʰɔi - tsei dzau˥ fa:n lun˥
 洪武の言葉が悪かったので反乱が起きた。
 cun tsei˥ kʰiʔ˥ cun ma:n˥ kʰiʔ˥ ma:n˥
 君主が君主を食い、民が民を食う事態になった。
 注 kʰɔi tsei: 言葉を発する。
- 58 瑤人在落南海殿 大旱三年难割朝
 iu - ɲiən˥ tsoi˥ loʔ˥ na:m˥ kʰɔi˥ tin˥
 ミエン(瑤人)は南海殿にいた。
 ta:i˥ ha:n˥ fa:m nin na:n˥ tsep˥ tsiu˥
 旱魃が三年続き、国には居られなくなった。
- 59 就是瑤人供過海 割落廣東府内修
 tsjəu˥ tsei˥ iu - ɲiən˥ cwaŋ˥ ciə˥ kʰɔi˥
 そのため、ミエンは海を渡った。
 tsep˥ loʔ˥ kwaŋ˥ - toŋ˥ fəu˥ noi˥ fjəu
 廣東府に到りそこで生活した。
- 60 奏始爲王管天底 定漢高祖管朝中
 dzau˥ si˥ wei˥ huŋ˥ kun˥ tʰin - diə˥
 奏始が王となって天下を治めた。
 tiŋ˥ ha:n˥ kau˥ - tsu˥ kun˥ tsiu˥ twaŋ˥
 定漢の高祖は国を治めた。
 注 奏始:「秦始」(秦始皇帝)の誤記と推察されるが、インフォーマントの解釈に従う。定漢:「漢を定めた」と読めるが、インフォーマントは「定漢」という皇帝名だということで、それに従った。

- 61 前漢管朝二六歳 後漢管朝九十六年
 tsin[˥] ha:n[˥] kun[˥] tsiu[˥] jɛi[˥] luəʔ[˥] fwi[˥] həu[˥] ha:n[˥] kun[˥] tsiu[˥] cuə[˥] tsiəp[˥] luəʔ[˥] nin[˥]
 前漢の治世は12年であった。 後漢の治世は96年であった。
- 62 獨漢管朝九十四 [蜀] 武帝管爲五十年
 tsu[˥] ha:n[˥] kun[˥] tsiu[˥] cuə[˥] tsiəp[˥] fei[˥] wu[˥] ti[˥] kun[˥] wei[˥] m̃[˥] tsiəp[˥] nin[˥]
 蜀漢の治世は94年であった。 武帝は50年治めた。
- 63 院南管朝一百歳 [雲] 南宋武帝五十九年
 juən[˥] - nan[˥] kun[˥] tsiu[˥] jiat[˥] pɛʔ[˥] fwi[˥] nan[˥] tsuŋ[˥] wu[˥] ti[˥] m̃[˥] tsiəp[˥] cuə[˥] nin[˥]
 雲南の治世は100年であった。 南宋の武帝は59年治めた。
- 64 高帝管朝未多九 [久] 二十三年間爲世修
 kau[˥] - ti[˥] kun[˥] tsiu[˥] mei[˥] tɔ[˥] ciəu[˥] ni[˥] tsiəp[˥] fa:m[˥] nin[˥] ken[˥] wei[˥] sei[˥] fjəu[˥]
 高帝の治世は長くなかった。 23年間世を治めた。
- 65 南 [彳+日+水] 武帝五十歳 南陳武帝管朝二十年
 nan[˥] ? wu[˥] ti[˥] m̃[˥] tsiəp[˥] fwi[˥] nan[˥] - tsen[˥] wu[˥] ti[˥] kun[˥] tsiu[˥] ni[˥] tsiəp[˥] nin[˥]
 南 [彳+日+水] の武帝の治世は50年であった。 南陳の武帝の治世は20年であった。
 注 [彳+日+水] はインフォーマントにも発音が分からなかった難字である。涪の部首位置変更とも考えられるが、別字の誤記の可能性もあるので、にわかには判断できない。
- 66 隨主又管三百八十九歳 [隋] 管朝世上好寛油
 tswi[˥] wan[˥] jəu[˥] kun[˥] fa:m[˥] pɛʔ[˥] pet[˥] tsiəp[˥] cuə[˥] fwi[˥] kun[˥] tsiu[˥] sei[˥] tsa:ŋ[˥] khu[˥] jian[˥] - jəu[˥]
 随王も389年治めた。 世間の人々は皆喜んだ。
- 67 [彳+日+水] 皇管朝未多九 [久] 七十七年間爲世修
 ? huŋ[˥] kun[˥] tsiu[˥] mei[˥] tɔ[˥] ciəu[˥] ts^hiət[˥] tsiəp[˥] ts^hiət[˥] nin[˥] - ken[˥] wei[˥] sei[˥] fjəu[˥]
 [彳+日+水] 皇の治世は長くなかった。 77年間、世を治めた。
- 68 又来交過唐難管 十三年間管國行
 jəu[˥] taai[˥] ciu[˥] ciə[˥] tɔŋ[˥] na:n[˥] kun[˥] tsiəp[˥] faam[˥] nin[˥] - ken[˥] kun[˥] - kuəʔ[˥] hɛŋ[˥]
 また、唐難の治世になった。 13年間国を治めた。
 注 「唐難管」は「唐になって治世が難しかった」とも読めるが、インフォーマントの言に従って王の名としておく。
- 69 又交同敦管刈府 [州] 九年天底好寛油
 jəu[˥] ciu[˥] tɔŋ[˥] twi[˥] kun[˥] tsjəu[˥] fəu[˥] cuə[˥] nin[˥] t^hin[˥] - diə[˥] k^hu[˥] jian[˥] - jəu[˥]
 また代わって同敦が国を治めた。 9年間天下の人々は楽しんだ。
- 70 己代皇爺爲世上 [幾] 正到元朝太祖皇
 tsia[˥] toi[˥] huŋ[˥] jia[˥] wei[˥] sei[˥] tsa:ŋ[˥] tsiŋ[˥] t^hau[˥] jun[˥] - tsiu[˥] taai[˥] tsəu[˥] huŋ[˥]
 何代もの皇帝が民を治め、 元朝の太祖皇帝に到った。

- 71 元朝管焯八十八歳 [州] 政到明朝太祖皇
 jun˥ tsiu˥ kun˥ tsjəu pet˥ tsiəp˥ pet˥ fwi˥ tsiŋ˥ tʰau˥ meŋ˥ tsiu˥ ta:i˥ tsəu˥ huŋ˥
 元朝は国を88年間治め、 明朝の太祖皇帝に到った。
- 72 明朝仁兄十六帽 管朝一百七十七年間
 meŋ˥ tsiu˥ ɕin˥ ɕoŋ tsiəp˥ luə˥ muə˥ kun˥ tsiu˥ ɕiət˥ pɛʔ˥ tsʰiət˥ tsiəp˥ tsʰiət˥ nin ken
 明朝皇帝の兄弟は16人いた。 治世は177年続いた。
- 73 朝中寛善話不尽 正到清朝世祖皇
 tsiu˥ - twaŋ ɕien˥ - hei˥ wa˥ ɕa:m˥ tsiən˥ tsiŋ˥ tʰau˥ tsʰiŋ˥ - tsiu˥ sei˥ tsəu˥ huŋ˥
 国の中は暮らしやすく、それは語り尽くせないほどであった。清朝の世祖皇帝に到った。
 注 jen˥-hei˥ : 楽しい。ミエン口語彙。
- 74 爲皇管國傳报了 過山榜圖把世間
 wei˥ huŋ˥ kun˥ kuəʔ˥ dzun˥ buə˥ liu˥ ciə˥ sen pəŋ˥ təu˥ pa˥ sei˥ - ken
 皇帝となって国を治め、人々に知らせた。 「過山榜圖」をミエンに与えた。
- 75 当初置立過山榜 交把猿人接祖香
 təŋ˥ tshə tsei˥ liəp˥ ciə˥ sen pəŋ˥ ciu pa˥ iu - ɲiən˥ dzip˥ tsəu˥ huŋ˥
 最初に「過山榜圖」を創り、 ミエンに与え、祖先を祀らせた。
 注 dzip˥ tsəu huŋ˥ : 祖先を祀る。
- 76 拾二牲猿人供来猛 隨山耕種各焯庭
 [姓] [州 廷]
 tsiəp˥ ɲei˥ fiŋ iu - ɲiən˥ cuəŋ˥ ta:i˥ moŋ˥ dzwəi˥ sen keŋ - tswaŋ˥ kəʔ˥ tsjəu˥ - tiŋ˥
 十二姓ミエンは共にムアンへ来た。 各県・各郡の山地で耕作した
 注 tsiəp˥ ɲei˥ fiŋ iu˥ - ɲiən˥ (十二姓猿人) : ミエンを文章上で表す常套句。猛 : タイ語の muəŋ (ムアン, 山間盆地の政体, 国, 町の意味) の音訳。
- 77 北京金鑾平皇殿 高皇外國外朝官
 [鑾]
 paʔ˥ kiŋ ɕiəm - la:n˥ peŋ˥ - huŋ˥ tin˥ kau˥ wa:ŋ˥ ɲiə˥ - kuəʔ˥ ɲiə˥ tsiu˥ cʰiən
 北京の金鑾殿は平皇の殿居であった。 高王は外国を治めていた。
- 78 高皇管下高利國 後世爲人細向真
 kau˥ wa:ŋ˥ kun˥ ɕiə˥ kau˥ li˥ kuəʔ˥ həu˥ - sei˥ wei˥ ɲiən˥ fai˥ ɕa:ŋ˥ tsʰiən
 高王は高利国を治めていた。 後世に(盤皇が現れて)ミエンに本当のことを説く。
 注 78行と79行は、上句と下句とが意味の上でつながらない。78行下句と79行下句はこれが1行をなし、76行の後に挿入した方が意味のつながりがつく。しかし、元のテキストがこのままであるので、ここでは原テキスト通りに記載する。fai ɕa:ŋ˥ : 述べる。説明する。
- 79 高皇呼管平皇殿 正立榜圖爲世間
 kau˥ wa:ŋ˥ dzeŋ kun˥ peŋ - huŋ˥ tin˥ tsiŋ˥ liəp˥ pəŋ˥ təu˥ wei˥ sei˥ ken
 高王は平皇と戦争した。 過山榜圖はまさにミエンの為に創られた。
 注 sei˥ ken : 一般には世の中、天下の意味であるが、ここではミエン全体を指す。

- 80 呼 管 猿 人 都 無 猛 隨 山 天 底 乱 猿 人
 dzeŋ kun' iu - ɲiən' siəŋ' məu' moŋ' dzwəi' sen thin - diə' lun' iu - ɲiən'
 戦乱により、ミエンはムアンに居なくなった。山に居り、天下が乱れたので、ミエンは分散移動していった。
 注 乱：ここでは、「天下が乱れた」という自動詞と「ミエンを乱した」という他動詞の両方を兼ねた表現となっている。81行の下句も同様。
- 81 代 代 可 然 爲 平 世 世 間 天 底 乱 猿 人
 toi' - toi' k'o' ɲiən' wei' peŋ' sei' sei' ken thin' - diə' lun' iu - ɲiən'
 代々安楽に暮らしていた。しかし、天下が乱れたので、ミエンは分散移動してきたのだ。

4. 考察

この「過山榜圖」は、パネルの示したミエン歌謡の分類によれば「古」(Purnell 1991: 379) という、故事を述べるものに分類される。これは前に報告した「歌二娘古」(吉野 2016b) と同じ分類である。「情由」に分類される「後生女子歌」(吉野 2017) とは異なる。しかしながら、同じ「古」とはいえども、「歌二娘古」とは趣を異にしている。「歌二娘古」がドラマ仕立てであるのに対し、「過山榜圖」はミエンが有史以来経験してきた王朝のことで、王朝が変わり政治が変化したことにより、ミエンの祖先たちが移動しなければならなかった歴史を述べている。後半に中国の王朝と思われる王朝の代替わりの経緯が述べられている。その中には実在の王朝名もあるが、盤古、天皇、伏羲、神農、譽、堯、舜といった神話的な王朝名をはじめ、その後の王朝名も不明あるいは誤記のものが多い。勿論、正確な王朝年代記を記すのが目的ではなく、中国の王朝がめまぐるしく代わり、その政治変動にミエンの祖先たちが耐えて、現在までミエンが存続していることを述べるのが主意である。そうしたエスニック・アイデンティティの表現は33行から38行の文言に顕著に読み取れる。

44行から48行に述べられているのは、カーゴカルト的な、あるいは千年王国運動的な盤古王再来の願望である。この点は、注目しておいて良い。実は、ミエンの口承伝承では、このような盤古あるいは盤王が現世のミエンを救護してくれるという観念は強くあり、タイでは一連の盤王廟設立の運動となって現れてきている。この歌からだけではその動向の全体を衡ることはできないが、今後の課題として、ミエンの千年王国的な観念の存在は確認できる。

付記：この報告は、科研費(26370944, 15H03282, 15H02615)による調査研究の成果の一部である。

参考文献

- IMED→Purnell (ed.) 2012.
 MMED→Panh (ed.) 2002のMienh-English Dictionary部分。
 珀内尔 (Purnell, H.C.) 1988 「“優勉” 瑶民間歌謡的韻律結構」 喬健／謝劍／胡起望 (編) 『瑶族研究論文集』 北京：民族出版社、pp.143-170。
 Panh, S. 2002 *Modern English-Mienh and Mienh-English Dictionary*. Victoria: Trafford Publishing.
 Purnell, H. C. 1991 The metrical structure of Yiu Mien secular songs. In Lemoine, J./Chiao Chien (eds.) *The Yao of South China: Recent international Studies*. Paris: Pangu, pp.369-394.
 Purnell, H. C. 1998 Putting it all together: Components of a secular song in Iu Mien. In Chellich, S. / de Reuse, W. (eds.) *Papers from the Fifth Annual Meeting of the Southeast Asian Linguistics Society 1995*, Tempe, AZ: Arizona State University, pp.277-302.
 Purnell, H. C. (compl. & ed.) 2012 *An Iu-Mienh - English Dictionary with Cultural Notes*. Chiang Mai: Silkworm Books.
 吉野 晃 2013 「廟と女性シャーマン—タイ北部、ユーミエン (ヤオ) の新たな宗教現象に関する調査の中間報告—」 『東京学芸大学紀要 人文社会科学系Ⅱ』 64, pp.115-123。

吉野 晃 2016a 「〈歌〉の詠唱法と儀礼への応用：タイ北部，ユーミエン（ヤオ）の新たな宗教現象に関する調査の中間報告
2」『東京学芸大学紀要 人文社会科学系Ⅱ』67, pp.103-110。

吉野 晃 2016b 「タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語：『歌二娘古』発音と注釈」廣田律子（編）『ミエン・ヤオの歌謡と
儀礼』岡山：大学教育出版，pp.55-71。

吉野 晃 2017 「タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語（2）：『後生娘子歌』発音と注釈」『東京学芸大学紀要 人文社会科学
系Ⅱ』68, pp.47-58。

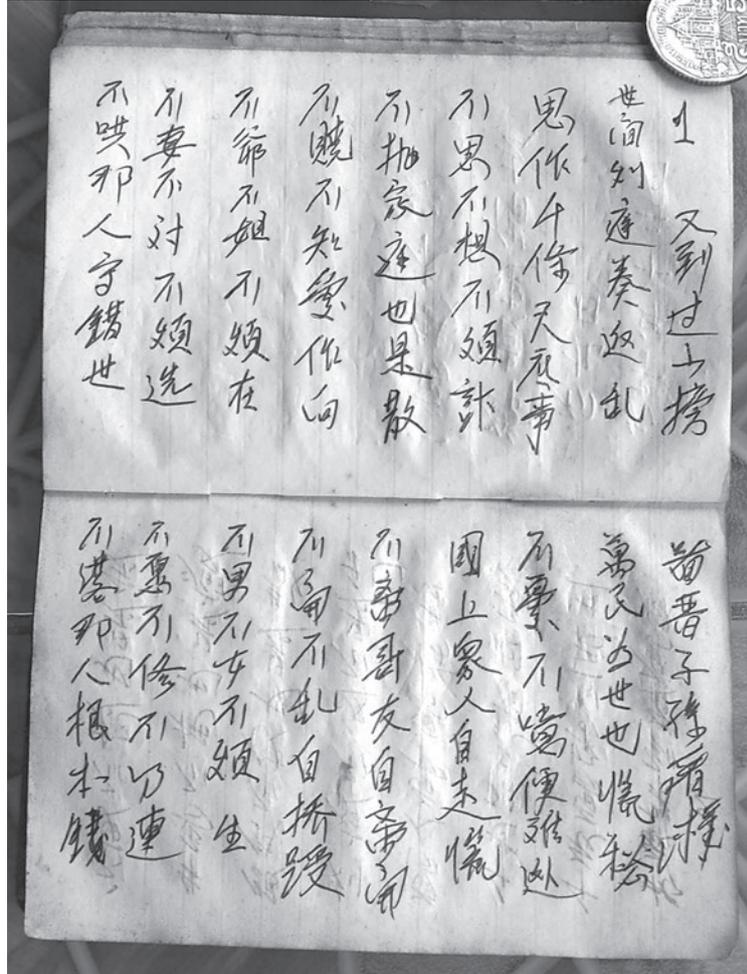


写真1 「過山榜圖」1頁